

そしてこのオンライン「あ・走」の、もう1つの大きな目的は、今年の春季大祭の大教会長様の神殿講話の中で、記念祭で一番大事なことは「おつとめ」だとおっしゃいました。

この話のきっかけになったのは、世話人久保善平先生のお話からで、昨年12月、1年の御礼の挨拶に田原分教会の詰所に行かせて頂いた時に、大教会長様のお伴で、私も同席しておりましたが、その話の中で、昨年行われた、田原分教会の130周年の話になり、先生は、コロナで真柱様のお入込みが叶わず、参拝者も規制をし、食事もお弁当を持って帰って頂きました。ちょっと寂しい記念祭に思われましたが、しかし、おつとめを勤めている時、10年前の記念祭の時は、おつとめをしながら、この後の準備の事とか、手落ちがないだろうかと考えていました。でも、今回はおつとめの事だけに集中出来たことが、本当に有り難かった。と話されました。その時の先生の言葉と、表情に、私は感銘致しました。私がそう感じたのですから、大教会長様はも

ろんそれ以上に感じられた事と思います。大教会長様はすぐ行動に移し、翌月の神殿講話の内容が「おつとめ」についてでありました。そして、今回のオンライン「あ・走」も大教会長様からご提案があり、テーマを「おつとめ」と決め、進めてまいりました。今回は、信仰のまだ浅い方にも、どうして「おつとめ」が大事なのか、何で「おつとめ」をしなければいけないのか、はたして「おつとめ」って何なのか、記念祭のおつとめを勤めるにあたり、それを知らないで勤めるのと、知って勤めるのでは、大きく違います。このオンライン「あ・走」で、この「おつとめ」を少しでも分かって頂き、8月29日の記念祭の「おつとめ」を、みんなと勇んだ心で、勤める事が、2つの目の目的であります。

話頂きますので、多くの方に広めて頂きますよう宜しくお願い致します。 これまではオンライン「あ・走」の宣伝でしたが、110周年実行委員会はこのコロナの中ではあります。毎月会議を行って頂きます。しかし、記念祭があと5ヶ月余りと迫り、8月29日が世間ではどんな状況になっっているのか、いまだ分からない中、私は、いまいち気分が盛り上がり、ちよつと焦っておりました。そんな時、このオンライン「あ・走」の配信が決まり、なにか、ホツとしました。しかしそれが、どうしてかは、その時は分からなかったのですが、先月の本部月次祭の永尾教昭先生の神殿講話を聞かせて頂き、それが分かりました。

永尾先生は、天理大学の学長もされておられ、皆さんもご存知の通り、今年1月、天大ラグビー部が初めて日本一になりました。私も、ラグビーファンで、泣きながらその瞬間を、見ておりましたが、その結果は、圧勝でした。身近で見てきた永尾先生は、どうして強くなれたのか、そして日本一になれたのかを、お話下さいました。天大ラグビー部は昨年、コロナの集団感染を起こしてしまい。大学には世間から、多くのクレーム、バッシングがありました。それは大学だけでなく、選手個人にもありました。しかし選手達が、心が折れそうになつた時、前を向き勇める事が出来たのは、絶対に日本一になると言う、目標があったからです。そして、バッシングだけでなく、多くの励ましがあって、集団感染の苦難があつたからこそ、その目標をより強く持つ事が出来たのです。どんなことでも目標をもって通る事が大切であると おっしゃいました。

110周年実行委員会で大教会長様が、記念祭で一番大事なことは、「おつとめ」とおっしゃり、実行委員会ですらに、対して動き出した事で、私がホツとしたのは、私に「おつとめ」と言う目標が出来たからだったのです。その事を先生は気づかせてくれました。又先生は、神様のご守護に関して、助かったから、心が勇

むのではなく、心が勇むから助かる。この順序が大事だとおっしゃいました。おふでさきにも、 だんく〜と、心いさんてくるならば、せかいよのなかと ころはんじよ (一―9) とあります。みんなの心が勇むから、親神様からの御守護が頂けるのです。先ず先に勇む事が大切なのです。では勇むにはどうしたら良いかと言うと、「人間の目標」である、陽気ぐらしの実践であります。 私はこの陽気ぐらしと聞いて、いつも思い出す話があります。それは、30年程前に、車のラジオで聞いた話で「天国と地獄」という話です。ある男が、自分が死んだら天国と地獄、どちらに行くのだろうと思ひ、神様に聞くと、天国と地獄を見せてやろうと言ひ、先ず地獄に行きました。そこは綺麗な花畑で、その男は神様が間違えたのではないかと思ひました、しかしそこにはたくさんの方がいて、みんな顔はこけて、体はガリガリで荒んだ顔をしていました。そこに係りの人が来て、食事の時間だと言ひ、そこに出さ